

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもかがやきセンターかのん（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和7年1月1日		～ 令和7年2月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27名	(回答者数) 18名
○従業者評価実施期間	令和7年1月1日		～ 令和7年2月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・事業所の強みは、こども一人ひとりに合わせた多様なプログラムを提供し、手厚く柔軟に対応できる点です。こどもの状態やペースに寄り添いながら適切な支援に努めています。また職員も明るく、こどもが大好きです。	・集団支援では、週毎に取り組むプログラムを工夫し、親子で楽しみながら支援ができるように努めています。 ・職員体制に合わせた適切な受け入れにより、ご家族と一緒にお子様を見守る機会を多くしています。	・職員全体で研修を積極的にうけることで、さらに専門的な支援に努めています。 ・職員皆で笑顔でこどもとご家族を支援し、ご家族との信頼関係構築に努めています。
2	・主に、保護者付添での個別支援や集団支援をしています。こどもの様子を一緒に観察しながら、こどもの気持ちやご家族の気持ちに寄り添うことができます。職員が専門的に関わる様子を見てもらうことで、子育てをしながら我が子への関わりや声かけを学んでもらえることは、かのんならではの強みだと思います。	・保護者交流会や勉強会などを定期的に開催しています。平日に参加できないご家族に対しては、不定期の土曜日営業(イベント)にお誘いしています。 ・取り組んだ支援プログラムや内容を持ち帰ってもらい、家庭でもできることを一緒に考えています。	・訓練中はお子様の様子を見たいというご家族もいらっしゃいますが、希望に応じて、ご家族どうしの交流の場を随時設け、日頃の悩みなどを気軽に話せる環境作りを努めて行きます。 ・ペアレントトレーニングを積極的に開催し、保護者同士と一緒に子育てを学ぶ機会を設けていきます。
3	・家庭の事情により、家族の付添ができないこどもに対しては、保育園との送迎での支援も受け入れております。お仕事で通えないというご家族の要望を受け、こどもの状態を確認しながら送迎を検討しています。	・送迎先の保育園に協力してもらえるよう、かのんの活動を情報提供しています。安心して送り出してもらえるよう、園の先生とのコミュニケーションも心がけています。	・送迎のみの利用のご家族へ、こどもの様子について丁寧な報告を心がけます。また様々な情報提供が滞らないように連絡帳やSNSを積極的に活用していきます。
4	・かのんは、長年県の障害児等療育支援事業の委託を受けており、地域の中で20年にわたり療育に携わってきた事業所です。子どもの発達の違いや子育てに悩むご家族に対し、かのんでの療育を体験してもらいながら相談を受ける機会を設けています。	・こども園や関係機関との連携も積極的に行っており、利用者や関係機関全体で支援することに努めております。 ・ご家族の了承を得て、保育園に訪問して情報交換に努めております。	・見学無料相談会も実施計画し、今後はかのんの施設内だけでなく、協力機関(こども園)などでこどもの発達に悩みのあるご家族が気軽に相談できる機会を設けていきます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・ご家族の都合等で、利用ができないという状況があります。ご家族の付添や送迎が難しいこどもの利用が少なくなってしまう点が課題と思われます。利用したいのになかなかできなくて残念だというお声もいただいております。	・送迎の対応をしておりますが、全体の希望に添うことができない現状があります。保護者付添の療育を主にしていることが利点でもあります。保護者の状況により弱点にもなっていると考えます。	・送迎希望を募り、送迎対応のみの曜日や時間の設定を検討しています。送迎車や職員の体制等、安全に安心して利用していただけるように検証していきます。
2	・環境設定の工夫が課題です。整形外科医院の建物を改装して児童発達支援・放課後等デイサービスを営業しているため、限られたスペースを、こどもたちが安心して過ごすことができるような工夫が必要です。	・夏休みや冬休みの長期休暇中は、それぞれの事業で隣り合っ活動するため、こどもが不安になったり、ひきつけられてしまいがちです。	・長期休暇中は、各担当職員で事前に打ち合わせして、構造化や環境の配慮をしていくことが必要であり、常に検討しながら支援しています。また、こどもたちが交流しながら、楽しく安心して過ごす機会も検討していきます。
3	・地域との交流…立地的に、施設が市内の外れに位置しているため、周辺住民や施設との交流が少ない点です。	・過去には、地域行事への参加や、かのんのイベントやおまつりへの招待などをしていましたが、コロナによる活動自粛の影響から交流も少なくなっているのが要因です。	・周辺施設のイベントやかのんのおまつり等、開催が多くなっています。今後はこどもやご家族の希望に添いながら、地域の方を招待し交流を図ってまいります。地域と共存したこどもかがやきセンターかのんを目指します。